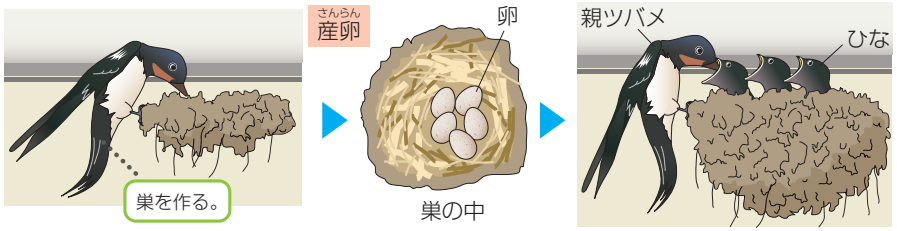
ツバメ ★★☆

ツバメは冬の間は暖かい (1) で過ごし，春になると日本にやってくる (2) です。(3) などに巣を作っているのがよく見られます。

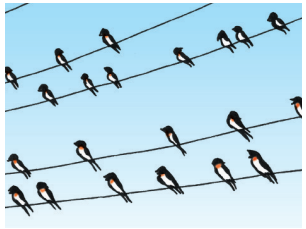
成長のようす

(4)，ツバメのおすとめすが協力して巣を作り，めすは巣の中に (5) の卵を産みます。親ツバメは卵が (6) するまで (7)。2 週間くらいで卵が (6) すると，親ツバメはひなに食べ物の (8) をあたえるなど (9) をします。



1 か月くらいでひなは自分で飛べるようになって (10) します。巣立ってすぐのひなは自分でえさをとれないので，親がえさをあたえます。巣立ちした若いツバメは水辺に生えるアシのしげみをねぐらにし，集団ですみます。

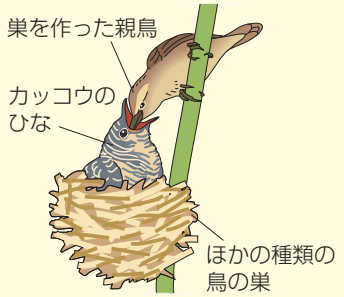
(11) になるとたくさんのツバメが電線に集まります。その年にうまれたツバメは飛ぶ練習をし，(12) へわたる準備をします。(13) には集団で南の国へわたります。



＋プラスワン

ツバメのように，春から夏に日本にやってくる夏鳥には，ほかにカッコウなどがいます。夏鳥は，冬の日本は寒く，食べ物である昆虫をつかまえられなくなるため冬の間は暖かい場所に移動するのです。

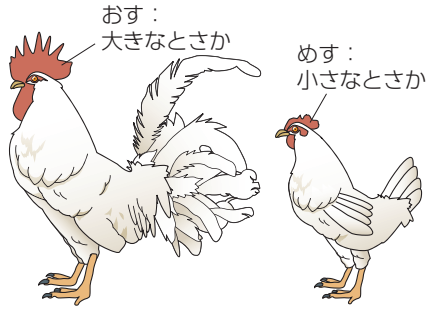
カッコウは，ほかの種類の鳥の巣に自分の卵を産みつけ，巣を作った親鳥に子育てをさせます。



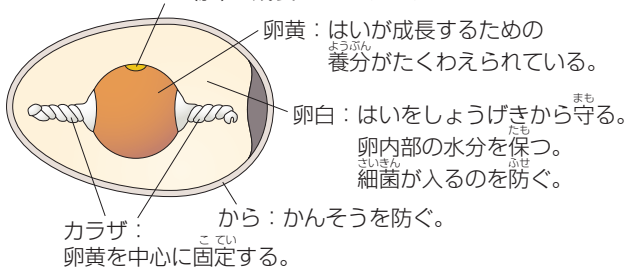
ニワトリ ★★☆

ニワトリは，肉や卵を食用とするために人間によってたくさん飼育されている鳥です。おすの頭にはめすよりも (14) があります。

ニワトリはつばさをもちますが，うまく飛ぶことはできません。



ニワトリなど，鳥類の卵は (15) におおわれています。卵の中には，(16) や (17) があります。卵黄の上にある (18) が成長し，ひなになります。



カラス ★☆☆

カラスのなかまは，人間のすむ所の近くや山などいろいろな場所にすむ (19) で，1 年中日本で見られます。樹木などに巣を作ります。

カラスは動物の死がいや植物，昆虫，人間の出した生ごみなどいろいろなものを食べます。

カラスは鳥類の中でもとても頭がよいとされています。

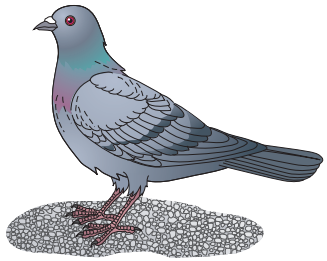
＋プラスワン

日本でよく見られるカラスは，ハシブトガラスとハシボソガラスです。どちらも真っ黒なからだで，すがたはよく似ていますが，ハシブトガラスのほうが太いくちばしをもちます。

ハト ★☆☆

ハトのなかまは，公園や神社などでよく見られるとても身近な (20) です。(21) や (22) などを食べます。

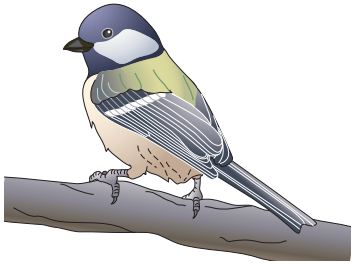
ハトは平和のシンボルとされます。



シジュウカラ ★☆☆

シジュウカラは森林などにすむ (23) です。たまに街でも見られることがあります。

シジュウカラは，(24) や (25)，(26) などいろいろなものを食べます。



＋プラスワン

シジュウカラやハト，カラス，スズメなどのように 1 年中日本にいるのが「留鳥」です。一方，北の国と南の国をわたるとちゅうの春と秋に日本に立ち寄る「旅鳥」がいます。旅鳥にはシギやチドリなどがいます。

シギやチドリは水辺で昆虫やカニ，貝などを食べます。

シギ

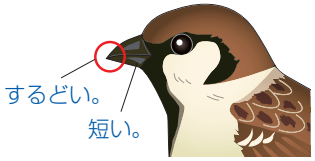
チドリ

スズメ ★☆☆

スズメは，田んぼや草むら，人間のすんでいる所の近くなどにすむ (27) です。(28) や (29) などいろいろなものを食べます。

スズメは冬でも外でよく見られます。寒いときは，スズメは (30) の間に (31) をたくさんふくませて，体温がうばわれないようにします。

スズメは植物の種子などが食べやすいように，(32) くちばしをもちます。



＋プラスワン

鳥類には歯がないかわりに，かたいくちばしがあります。くちばしの形は種類によって異なり，それぞれの鳥の食べ物が食べやすいようになっています。

キツツキ

樹木の中の昆虫をつつき出して食べる。
→細いくちばし

タカ

動物の肉を食べる。
→先が曲がったするどいくちばし

ハチドリ

花のみつを吸う。
→細くて長いくちばし

ペリカン

魚をすくって食べる。
→ふくろのようになったくちばし